

研究主題

自ら考え、表現し、学び合う児童の育成 ～授業の構造化と家庭学習の充実を通して～

I 研究の内容

1 研究の目標

やまなしスタンダードに示された視点と各教科の特性を考慮して、効果的に授業を構造化し、実践するとともに、学習形態を工夫し、授業を活性化することで、自ら考え、表現し、学び合う児童の育成を図る。

2 研究の内容・方法

(1) 児童の実態分析と指導法の改善

- ・全国学力学習状況調査(6年)の結果分析から、本校児童の実態把握をし、授業づくりの視点や指導法の共通理解を図る。
- ・学級の実態を把握することにより、児童の課題を的確につかみ、指導に生かしていく。

(2) 授業研究

- ・ブロックごと1本の授業研究をもち、検証を行う。

(3) 一人一実践の公開授業

- ・一人一実践を公開し、授業改善と授業力の向上を図る。

(4) 研究主題に関わった内容および特別支援教育の学習会

- ・講師を招聘し、学習会を行い、共通認識をもつ。

(5) 学びの基礎となる学習環境づくり

- ・発達段階に応じたノート指導を系統立てる。
- ・授業とリンクした家庭学習となるよう、「家庭学習のすすめ～学びの甲斐善八ヶ条～」をもとにした家庭学習の定着・充実を図る。

(6) 教育課程環流報告

3 実践内容

(1) 学習会

「授業の活性化」

峡東教育事務所 指導主事 山下 俊先生

「特別支援教育に関わる学習会」

高校改革・特別支援教育課 副主査・指導主事 上嶋 宏樹先生

(2) 研究授業

第1学年 国語科 「みんなで『じどう車ブック』をつくろう！」

授業者 新谷 雅美先生

指導助言 峡東教育事務所

霜村 文晴主幹・指導主事

第5学年 英語科 「We Can!① Unit 5 ～できること～」

授業者 岩下 亜希子先生

(3) 一人一実践

第2学年	算数科「新しい計算を考えよう」	桐山 祐希教諭
第2学年	算数科「ひっ算のしかたを考えよう」	高野恵美子教諭
第3学年	算数科「新しい計算を考えよう」	廣瀬 桃花教諭
第3学年	算数科「大きい数のわり算を考えよう」	山宮 由紀教諭
第4学年	算数科「わり算の筆算を考えよう」	岩下 秀人教諭
第5学年	算数科「きまりを見つけて」	岩下亜希子教諭
第6学年	算数科「速さの表し方を考えよう」	山田 勝博教諭
すみれ学級	算数科「ビルをつくろう」	廣瀬 明子教諭
教務主任	理科「じしゃくにつけよう」	武井 茂教諭

II 成果と課題

1 成果

- 目指す児童像を明確にし、研究内容を焦点化することで、様々な教科や活動で「授業の構造化」と「家庭学習の充実」を意識して取り組むことができた。
- 研究内容に合わせて2回学習会を行ったが、具体的な方法など教えていただき勉強になった。
- 指導案の表記や授業の流れ、学び合い方など、研究授業を通して検証できた。また、全員が研究内容にかかわった一実践を見合うことで、全校で同じ方向で研究していることが確認できた。
- 全国学力学習状況調査を採点する中で、児童の課題がはっきりし、授業づくりの視点が見えた。
- 話し合いの話型、声のものさし、学び合いの仕方など掲示物を作成し、可視化することで子どもたちも授業の中で意識して取り組むことができた。
- 後小ノートは記録用カードの有無に関係なく、定着している児童はしっかり取り組むことができている。内容が充実し選ぶテーマの使い方もよくなってきている。
- 今年度は山梨市の英語教育公開校になり、校内研の中でも指導案検討をするなど、英語教育についても研究することができ良かった。

2 課題

- 授業の構造化を形式的にとらえるのではなく、考えさせる指導、本時を振り返って定着させる指導など、一つ一つのステップの内容にもう少し踏み込んでいく。
- 家庭学習への取り組み方は、依然二極化の傾向が残る。低学年から中学年への段階へ進む時期がとでも大事になってくる。意欲の持続や、保護者の意識を高めるための工夫が必要である。
- 基礎基本の定着という部分で、朝学習の時間の使い方について検討が必要である。

III 成果物

- 1 研究授業・授業実践の指導案
- 2 学習環境を整える掲示物「聞き方名人」「話し方名人」「声のものさし」「話し方」

(研究主任 山宮 由紀)